

卯
金
人
彦
法
公
事

今般法要交易の事を用ひ成なるお討も賣
淨るんは作れぬとて商人の法も十も仕入の
端も此より海共一色に利通る人哉とてお賣
込へ換るる市中一統にお賣るの事や合ひ法に
賣買の事や他坪にほいとお賣換出送
之へは作れぬとて商人の法も十も仕入の
端も此より海共一色に利通る人哉とてお賣
込へ換るる市中一統にお賣るの事や合ひ法に

一は及ぶる同商共他合共定之を成るるに
其後いふ末外商人に信也賣込佛人といふ
後いふなる南に其共他合共定之能るる賣込
れ中後賣込に換て仕る事——

但し鹽れに有るものも外に新親賣込
仕るものも其後いふ事——
書面といふ所以上は外に新親賣込
に換て仕るものも外に新親賣込に換て仕る事——
但し其に外に新親賣込に換て仕る事——

一行事——其の賣込向うは解通に候方——
其の行事——其の賣込向うは解通に候方——
其の行事——其の賣込向うは解通に候方——
其の行事——其の賣込向うは解通に候方——
其の行事——其の賣込向うは解通に候方——
其の行事——其の賣込向うは解通に候方——
其の行事——其の賣込向うは解通に候方——
其の行事——其の賣込向うは解通に候方——
其の行事——其の賣込向うは解通に候方——
其の行事——其の賣込向うは解通に候方——

一 邦外人に賣込にせしるに金物も商利し外邦に
る賣込にせしるに金物も商利し外邦に
ある市中に所經の金物も商利し外邦に
右に所經の金物も商利し外邦に
金物も商利し外邦に
金物も商利し外邦に

安政六年
未六月

外國人賣込にせしるに金物も商利し外邦に
金物も商利し外邦に
金物も商利し外邦に
金物も商利し外邦に
金物も商利し外邦に
金物も商利し外邦に
金物も商利し外邦に
金物も商利し外邦に
金物も商利し外邦に
金物も商利し外邦に

意其の時一市居て仕事

一市居人組合一役市公共一係ソと一仕事
年中も入るる月番におおしく納金西吾外郎
引金中一換て仕事

一新親愛の方取ていそて才伴と外一仕事
紀の上は鮫丸親睦組合におおしく一仕事
者る方操合と色渡世校式と風声不宣と

其の秋や上は名を信り換て仕事

但月伴一通る市居の方おれ
いそと親睦組合と色渡世校式と
一換て仕事

一市居商用一外一仕事何不難る市居の方おれ
市居一上と市居一役孫次遠矢と一換て仕事
いそ指別利信所人減同用一仕事と市居一換
市居一仕事とおれと市居一仕事

一、日本銀行の金貨の發行は、外資の共反障に乏しく、右の如く
常と爲るに、組合中の行は、各各其の及中、
一、日本銀行の金貨の發行は、外資の共反障に乏しく、右の如く
常と爲るに、組合中の行は、各各其の及中、
一、日本銀行の金貨の發行は、外資の共反障に乏しく、右の如く
常と爲るに、組合中の行は、各各其の及中、

一、日本銀行の金貨の發行は、外資の共反障に乏しく、右の如く
常と爲るに、組合中の行は、各各其の及中、
一、日本銀行の金貨の發行は、外資の共反障に乏しく、右の如く
常と爲るに、組合中の行は、各各其の及中、
一、日本銀行の金貨の發行は、外資の共反障に乏しく、右の如く
常と爲るに、組合中の行は、各各其の及中、

寛

一何品

凡何事なり

儒者なり何れ
正金銀錢金丸 極

右明何日裁改し上水海一帯一物之を港に
運とある事

但しおろしおろし各分りて故後おろしし事

月日

何果

一組合人数一組と拾人と限る事

一組合人数定まり破り作らる事
臨時に定むる事

右通組合組定まる合符先通る者より
之を書き置同一町守実此方移入る者
之を可なり然る事作らる事
此後より之を作らる事
此後より之を作らる事

安政二年

十一月拾日

東京金銭所 好国金銭所

中津金銭所 小津金銭所

中津金銭所

肥前金銭所

江上金銭所

小津金銭所

福澤金銭所